

## マタイの福音書 第5章 8節

「心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。」

久しぶりで県外へ出る機会を得た。小春日和のような日差しのもとでの移動である。小春日和とはいえ季節は冬真ただ中である。空気は乾き、澄み切って空がどこまでも青く広がる。その下に裾野まで積もった雪をたたえてそびえ立つ富士の山がある。額縁をおいたなら絵に描かれたような風情である。絵画にまさる実物大の迫力が眼前に迫る。他の山脈を従え雄大な姿を見せけている。澄んだ空気と、広大な裾野、そして自然をありのまま見ている目、これが揃った光景である。

幸いも澄んだ心からおとずれる。澄んでいる者のところはきよくされている者である。澄んでいる者のところは純粹だ。その心を与えくださったのが神である。澄んで、きよく、純粹な心は自分では持つことがかなわない。その心は与えられなければならない。

与えられている心で与えてくださった神を見る。それこそが幸いなる者である。なにからなにまでも備えてくださり、そのお方、神ご自身を見ることを許されている。このことのために御子イエスを世に贈られ、御子のいのちまで捨ててくださった。さらに、私たちの義のために御子をよみがえらせてくださった。このさずかった心の目で神を見る幸いがある。

2024年2月3日